



同窓会だより

校訓
 けいしん あいち
 敬心 愛知
 けんし りょっこう
 堅志 力行

会長挨拶

『ご卒業、おめでとうございます』

同窓会会長 戸野 法史(23 回生)

桜のつぼみも膨らみ始め、春の花々の香がふくよかに漂う佳き日に、皆さまは三原高校を卒業されました。同窓会を代表して『ご卒業おめでとうございます』という饒の言葉を贈ります。さらに、卒業生の皆さまを三原高校同窓会 76 回生として新にお迎えしますので『ようこそ』という感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。



皆さまが2年生に進級された2023年5月に、新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行され、それまで皆さまの行動を縛っていた様々な制約が無くなりました。その後は、人と人とのコミュニケーションもマスクを外してできるようになり、入学式・卒業式や修学旅行も復活しました。教室のあちこちで友達との会話や笑い声も聞こえるようになり、文化祭や体育祭を満喫し、高校生活で得る全てのことが当たり前のようにできるようになった喜びを感じられたことでしょう。

皆さまは卒業を契機にそれぞれの路に進まれますが、その先には無限の可能性を秘めた多くの時間が用意されています。コロナ以後、一人ひとりがバラバラに孤立した社会に変容してしまったと言われていますが、一方で人としての多様性が認められ、今までよりも自らが正しいと判断した価値観に従って行動できる柔軟な社会に変わったとも言われています。

皆さまは、多くの制約から解放されたときの喜びや感動を知る世代なのですから、卒業後は、多くの時間を自分が正しいと考える価値観に従って行動して頂き、同級生や将来必ず出会うであろう人々との関係を柔軟に創り出してください。私たち同窓会は、皆さまのそれぞれの時間が充実した実り多きものになることを願っています。

校長挨拶

新たな一步を踏み出して
 ～ 第76回卒業式に寄せて ～

校長 大久保 信行

春の訪れを感じる折、同窓生の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。令和7年3月14日、第76回卒業式が執り行われ、卒業生たちが新たな一步を踏み出すこととなりました。



本校は、校訓「敬心愛知 堅志力行」のもと、「伸学校～伸びる学校 伸ばす学校～」というスローガンをたて、生徒一人ひとりの個性を尊重し、その可能性を最大限に引き出すことを目指しています。卒業生たちは、学業や部活動をこなし、友情を深めあい、数多くの経験を積み重ねてきました。コロナ禍の影響で困難な時期はありましたが、それでも強い意志をもち、前向きに学校生活を送り続けてきた卒業生に、私は大きな誇りを感じています。ここで、皆様へ学校の様子を報告するとともに、卒業生へエールを送ります。

今年度は、学校としてもいくつかの大きな変化がありました。その一つが制服の選択制の導入です。従来の学ランやセーラー服に加え、ブレザータイプの制服が新たに選べるようになり、自分の個性をより自由に表現できるようになりました。この変化は、ただ制服を選ぶということにとどまらず、自分を大切にし、自分らしく生きる力を育むための第一歩でもあったと感じています。三原高生には、自分の選択に対して責任を持ち、これからの人生を自分らしく歩んでほしいと思います。

また、修学旅行の行先変更も大きな変化でした。従来の国内旅行に代わり、タイ王国を訪れることとなり、異文化を直接体験する貴重な機会となりました。この修学旅行は、生徒にとって国際的な視野を広げ、異なる価値観や文化に触れる貴重な時間となったことと思います。タイ王国の歴史や文化、そして人々との交流

を通じて、グローバルな視点を養うことができたはず
です。これからの時代、グローバルな感覚や他者への
理解がますます重要になります。この修学旅行で得た
経験は、今後の社会で活かされることと思います。

そして、第76回卒業生の皆さんへ。皆さんが次のス
テージで活躍している姿を本校としても誇りに思いま
す。これからも多くの後輩たちがその足跡を追い、さ
らに輝かしい未来を築いていくことを願っています。
どんな道を歩まれたとしても、皆さんが高校時代に得
た知識や経験、人間関係が、きっと多くの場面で力強
い支えとなるはず。私たち教職員一同、皆さんが
それぞれのフィールドで充実した人生を送られること
を、心より願っています。そして、どんなときも母校は
皆さんの帰る場所であり続けます。

最後になりましたが、同窓生の皆様におかれまして
は、日頃から様々な形で御支援を賜り、誠にありがと
うございます。長年にわたる御支援のおかげで、ます
ます充実した教育環境を整えることができました。特
に、ICT教育の強化は着実に成果を上げています。
また、地域との連携も深まり、ボランティア活動や地
域貢献などの機会を通じて、三原高生は社会で求めら
れる力を身につけています。引き続き本校の活動に御
支援を賜りますようお願いするとともに、これからも
三原高校と同窓生が一体となって、未来を切り拓いて
いけることを祈念しております。

活躍する卒業生

ハンコ卸売センター三原店
民 宿 やすらぎ瀬戸田

鹿林 和弘 (44回生)

「実力はあります。まだまだ伸びます。得意教科をつ
くり自信を持つことが大切。自分に厳しく。」これは高
1年生の学年末、担任教師からいただいた言葉です。
母が大切にしていたタンスの中から出てきました。学
校生活 12 年分の成績表があるはずにもかかわらずこ
の年だけ。

高校卒業後、県内の理系大学に進学も、スーツを着
て仕事をするにあこがれており県内企業に営業職
として採用されました。厳しく評価してくださる上司
のおかげもあり充実した環境でしたが、現在はハンコ
卸売センター三原店を開業し、感謝の気持ちを忘れず
日々接客しております。さらに昨年、瀬戸田で父が始
めた民宿を継承しました。宿泊者さんにまた泊まりた
いと思っていただけることを第一に心掛けております。

何を強みとするべきか？を考えたとき、いろいろな
考え方を聞こうと思い、お声掛けいただいたものは断
らないようにしようと決めました。運よくPTA、町
内会、商工会議所などの活動を通じて、多くの人に経
験や考え方を聞く機会を得ることができました。途中
経過にはなりますが、現在のわたしの強みは「置かれ
た場所で自分らしく咲く」。いつか担任教師にお会いし
たとき、「変わりましたね。」と言っていただけよう
に自分らしく。

区分	所 見	担任印	保護者印
1			
2			
学 年	実力はあります。まだまだ伸びます。得意教科をつくり自信を持つことが大切。自分に厳しく。		
判定	進級・原級	学校長 天倉 彦造	

本物です。

活躍する卒業生

株式会社倉橋匠栄堂 代表取締役

倉橋 英治 (44回生)

大学で経営学を学び、卒業後、
故郷に帰り入社。

一経済人として、まちづくり
団体や三原市教育委員会へ身を
置く経験もさせていただきました。
現在、同社かの代表として
“魅力ある企業”を目指し、日
々社業に努めています。



三原高校在学中、恩師から「ひとりひとりに無限大
の可能性がある。学ぶことを続け、歩み続けてほしい」
旨の言葉をいただいたこと、今も記憶しております。

社会人として25年になりますが、その間、様々な困
難がありました。振り返ると、その都度、悩み、判断し、
決断することを繰り返してきたように思います。私は
悩んだとき、他者の意見を複数聞くことを心掛けてき
ました。特に代表職を預かってからは、人の意見に耳
を傾けることの重要性を実感し、大切にしています。
また、相談する相手には高校時代の同級生も含まれて
おり、今思うと当時の出会いに偶然以上の何かを感じ
ることもあります。

自分なりに紐解いた在学時の恩師の言葉、“無限の可

能性＝期待値”と受け止め、“悩むことこそ学ぶこと”と理解し、自身を取り巻くご縁に感謝を忘れることなく、社会人としての責任を果たせるよう、これからもあゆみ続けます。

活躍する卒業生

広島県立三原高等学校

定時制教頭 村上 孝憲

この数式

$3 + 2 + 4 + 1 \sim =$ は、何を表していると思いますか？

私は、35年前、三原高校で3年間学び、好きで得意だった数学を深く研究するために、九州の某大学の数学科に進学。その後、某大学院で先生の指導のもと数学を研究しました。

私は、算数が大嫌いな小学生でした。その当時、私が教員になるとは誰が想像していたでしょう。しかし、中学生になり、算数が数学という教科名に変わったこと、数学の先生との出会い、テストで初めて84点取ったことなどが引き金となり、私の中で眠っていた「数学のできるスイッチ」がオン！高校でも数学の先生に恵まれ、伸ばしていただきました。

大学4年生の2週間、三原高校での教育実習中に、私のつたない授業でも「解けるようになりたい」「できるようになりたい」という生徒の姿を感じたとき、私がしてもらったように、教員として恩返しがしたいと思うようになりました。そして、25年前、数学教員として最初の赴任校が母校と聞いたときは、驚きとうれしさでいっぱいになったことを思い出します。教員生活のスタートとしての4年間を三原高校で勤務したことで、教員としての素地が確立されたことは言うまでもありません。そして、縁あって再び、令和6年4月より定時制の教頭として勤務しております。「伸びる学校、伸ばす学校」を目指し、貢献していきたいと思えます。



母校は今

タイ王国修学旅行 報告

広島県立三原高等学校

全日制教頭 門田 浩一

令和7年1月14日(火)から18日(土)の5日間、タイ王国・バンコクへの修学旅行を実施しました。今

回の修学旅行は本校にとって初の海外修学旅行であり、広島県の公立高校でタイへの修学旅行は初めての試みでした。

初日は広島空港から出発し、台湾・桃園国際空港を経由し、タイのスワンナプーブ国際空港に到着しました。

2日目は、国立 Horwang School での学校交流を実施しました。この学校では日本語教育が盛んで、週5時間の日本語授業が行われています。折り紙などを教え合う活動を通じて、すぐに打ち解け、英語を使いながら積極的にコミュニケーションを楽しみました。午後は、現地の大学生と共に市内散策を行い、BTS(高速鉄道)、タクシー、トゥクトゥク(三輪タクシー)での移動も体験しました。バンコクの活気を感じる中、生徒たちは異国の文化に触れる貴重な体験をしました。夜はチャオプラヤ川のナイトクルーズで、ライトアップされた王宮やワットプラケオを眺めながらの夕食を楽しみました。



3日目は市内観光とクラス別研修を行いました。午前市の市内観光では王宮や暁の寺を訪れ、現地ガイドの説明を熱心に聞き、貴重な建築物を写真に収めていました。午後のクラス別研修では、事前に調査した場所を訪れ、現地のマーケットやパワースポットを見学し、地元の人々の日常生活に触れることができました。また大型ショッピングモールでおみやげの購入も楽しみました。

4日目はコース別研修を実施し、アユタヤ、カンチャナブリー鉄道、メークローン市場、象乗り体験など、生徒の希望に応じたプログラムを用意しました。象に乗ったり、世界遺産を見学したりする中で、文化の違いを前向きに受け入れ、充実した研修となりました。夜はアジアティークナイトマーケットでの夕食と買い物を楽しみました。

最終日、早朝にバンコクを出発し、台湾を経由して広島空港に帰って来ました。生徒たちはやや疲れた表情を見せつつも、充実した5日間を過ごしたことを実感している様子でした。体調を崩した生徒も若干いま

したが、大きなトラブルもなく全員無事に旅行を終えることができました。

出発当初は不安な表情を見せていた生徒たちも、日を追うごとに楽しそうな笑顔に変わっていました。普段は大人しい生徒たちが、



現地の人たちと積極的に交流する中で大きく成長したと修学旅行後の学校生活を見る中で引率者全員が感じています。学校では、これからの生徒たちの飛躍を引き続き支援していきます。

【つづいて生徒の感想を紹介します。】

タイ王国修学旅行を終えて

2年4組 向井 文音

修学旅行が海外と聞いて、最初は「なんで海外？しかもタイ？」と疑問と不安でいっぱいでした。しかし、今回タイに行ってみてとても楽しかったです。私が特に印象に残った思い出を2つ書きます。

一つ目は「B&S研修」です。現地の大学生と一緒に市内散策をしました。大学生と英語やジェスチャーで会話をし、「聞く力」の重要性を痛感しました。また、研修中に乗った「トゥクトゥク」は、車と車の間をすり抜けて走り、日本では考えられないような運転が味わえ、大変楽しかったです。そして同時に「世界一渋滞の多い国」であることを改めて実感しました。

二つ目は「コース別研修」です。私が行ったマーケットには、タイパンツやカゴバックなど魅力的なお土産がたくさん売ってありました。この市場の名物は、露店スレスレを列車が通過するというものですが、通過するタイミングで列車に乗っている人と挨拶したりハイタッチしたりと面白い体験ができました。一方で、場所によっては海水や果物などの匂いが混ざり強烈な悪臭を放っているところもあり、市場の表と裏を知ることができました。また、象乗りも体験しました。最初は「落ちるのでは」と怖かったのですが、ガイドさんが象に話しかけるとかわいらしい反応が返ってきて、いつの間にか怖さはなくなっていました。

今回の海外修学旅行では、日本ではできないことが体験でき、とても充実したものになりました。タイ料理などは、中には口に合わないものもあり、日本食が恋しくなりました。でもこのような経験も海外に行ったからこそ感じる事ができたのだと思います。タイ

は過ごしやすく、また世界遺産など観光名所も多くあり非常に興味深かったです。とても楽しい4泊5日となりました。

母校は今

弓道部 令和6年度の記録

第67回中国高等学校弓道選手権大会 個人戦出場

4月、新入部員男子1名・女子13名を迎えて、総勢男子8名・女子20名でスタートしました。4月13日(土)・14日(日)広島県立体育館弓道場で県選手権が行われ、灰谷達真君が、個人の部7位に入賞し、中国大会の出場権を得ました。



中国大会は、6月14日(金)～15日(日)山口県周南市のゼオンアリーナ周南弓道場で開催されました。試合会場に、周南公立大学に進学した弓道部OGも応援に駆けつけてくれました。

試合当日、灰谷君は、いつもと同じように落ち着いた射で、予選1立目4射2中、2立目4射4中(皆中)で、8射6中という記録でした。しかし、決勝へは、8射7中以上の選手が進んだので、惜しくも決勝進出はならなりませんでしたが、大健闘でした。



6月の県総体では、元谷葉菜さんが、個人の部6位に入賞しました。

また、5月の全日本弓道連盟主催の地方審査会において、西彩花さんが、三段に合格しました。三段に合格するのは難しく、誰でも達成できることではありません。これは熱心に御指導してくださっている花戸先生、OB・OGの応援あつてのことです。この場をお借りして感謝申し上げます。3年生の引退後、先輩達の頑張りは後輩たちに受け継がれています。

9月の尾三地区新人大会女子団体で、上野さん(2年)、岡野さん・生田さん(1年)チームが優勝しました。男子個人では、守本夢希斗君(2年)が優勝、女子

個人では、上野佐恵さん（2年）が3位となり、着実に力をつけています。さらに12月の東部錬成大会（尾三、福山地区）では、男子個人2年の部で守本君が優勝、女子個人1年の部で山口美春さんが3位となりました。これから、中国大会・全国大会を目指して、大きく成長していくに違いありません。

体操部

名門復活を目指して

皆様、こんにちは。私たち体操部の近況をお知らせします。

三原高校体操部は過去3名のオリンピック選手を輩出した名門校として名を馳せておりましたが、近年は部員の減少で苦しい状況が続いていました。

令和元年度に1名在籍していた3年生が卒業して部員が0名となり、2年間活動が全くないまま時が過ぎてしまいました。

現実的に廃部が目前かと危惧されましたが、令和4年度から男子2名、女子2名。令和5年度に男子1名、女子2名。令和6年度に女子3名が入部し、合計10名の大所帯となりました。

また、戦績として令和4年度尾三地区体操競技選手権大会で女子個人総合優勝しました。そして、中国大会については令和5年度に女子1名。令和6年度に男子2名、女子1名が出場を果たすことができました。

体操競技は非日常的な動きが多く、未経験の場合は入部に対して精神的な壁が高いと言われます。しかし、本校の生徒はほぼ全員が未経験者ですが先輩後輩共に教え合い、お互いに切磋琢磨しながら技の習得に励んでいます。

日々の練習は体育館のステージや敬心館の柔道畳を使用して工夫を重ねながら練習を行っています。競技会で最善の演技が披露できるように、それぞれの目標



に向けて部員一同、より一層の努力を重ねていく所存です。今後とも応援よろしくお願ひいたします。

学校現場の取組紹介

「堅志学」プロジェクト学習に参加して

正田 洋一（41回生）

このプロジェクトは、地域との交流を通して「高校生にできる地域社会への貢献」を目的としています。これは、2年生の取り組みですが、先輩達の研究成果を継承しながら、さらに発展を積み上げ、後輩たちにつなげていきます。ここでは、5つのプロジェクトの内、私が町内会長として関与させていただいた、「三原すこやかプロジェクト」について紹介します。

取り組み名称は「本町堀川プロジェクト」で、高齢者の健康増進につながるゲームの制作と実施です。

最初に、本町地区の道路形状や高齢化の現状等を調査し課題を発見します。本町地区には、階段、段差が多く危険な箇所が多いことに気づきます。そして、高齢者が階段や段差に躓かない生活をおくってもらうことが必要であるという課題をもとに、足や脳の機能低下を防ぐゲームを開発し、実施するという解決策を提案してくれました。



生徒が考案した磁石式ダーツ的（左）と足で行うゴルフ（右）

また、このゲームは楽しいレクリエーションとして、毎年1回、三原小学校の体育館で健康づくり体験会として継続しています。町内会としても毎年楽しみなイベントとなり、本町堀川地区だけでなく、本町地区全体に広がったほか、古浜地区などからも参加いただくイベントになりました。また、このメソッドは、町内のサロン活動等でも活用されることもあります。

三原高校の生徒さんが考えてくれたゲームが、地域の高齢者の課題解決の一助になっています。また、このイベントを通じ、高校生と高齢者が触れ合える貴重な時間になっていることも重ねて報告します。

以上今回は、ほんの一部のプロジェクトを紹介させていただきましたが、全体では5つのプロジェクトがあり、紹介させていただいた福祉分野の他に子育て分野、商店街の活性化、地域経済分析システム（RESAS）

のデータ分析を通じた課題解決提案、タイ修学旅行をきっかけとした外国人向けの提案等、多くの課題に挑戦しています。

豊かな発想と具体的な提案には感心する場面が多くありました。大変学びになるプロジェクト学習でした。今後の積み上げにも期待し、継続していただきたいと感じました。

お知らせ

器楽部第44回定期演奏会

令和7年3月26日(水)

三原市芸術文化センターポポロ

開演 18:30 開場 18:00

入場無料(要入場整理券)

広島県立三原高等学校器楽部
第44回定期演奏会
令和7年3月26日(水)
開演 18:30 開場 18:00
三原市芸術文化センター ポポロ
入場無料(要入場整理券)

【プログラム】
蒼き海と船乗り / 広瀬勇人
「アナと雪の女王」パレード / マーチング
ムーンライト・セレナーデ / グレン・ミラー
Mrs.GREEN APPLE メドレー 他

主催 広島県立三原高等学校器楽部
お問い合わせ 0848-62-2151 (坂本)

【訃報のお知らせ】

昨年12月に同窓会第4代会長の平田修己さん(9回生)がご逝去されました。平田前会長は平成24年(2012年)から平成31年(2019年)までの8年間、第4代同窓会長として創立100周年記念事業を企画推進されるなど、優れたリーダーシップを発揮され、同窓会の充実発展に貢献されました。また、広島県議会議員・広島県議会議長を歴任され、三原市のみならず広島県全体の発展にも貢献されました。ここに、ご逝去を悼み謹んで哀悼の誠をささげます。

【編集後記】

今回の活躍する卒業生は、3名の方が寄稿してくださいました。在学時の先生からの言葉などをテーマに、当時の思い出やその後の人生に与えた影響などをつづっていただきました。

私が三原高校に勤め始めた平成8年4月、先輩教員から「三原高校には歴史はあるが伝統がない」という話を聞きました。「そういえばそうか。でも、何か伝統と呼ばれるものがあるのではないか」と思っていました。それから5年後の平成13年4月、校訓「敬心愛知 堅志力行」が制定されました。

これは、第19代校長鳥羽紘史先生の発案で、国語科の榎俊博先生を中心に1年間制定作業が進められ完成したものでした。あれから20年の月日が流れましたが、今ではその存在は当たり前になった感がありますが、当時は斬新なものでした。

私の感覚では、定着するには3、4年かかったように思います。様々な場面で校訓に触れるたびに、生徒、教職員、同窓生の中に少しずつ確実に浸透していったように感じます。

当時の榎先生の言葉があります。

体育館の壁面には「三昧」の文字が掲げられている。格技場には「質実剛健」の4文字がある。それらは多年、校訓の代役を果たしてきたようなものである。しかしながら、代役は、代役であった。そこで、三原高校の伝統の真髄を明確にし、かつ顕揚するために、制定の作業に入った。およそ1年の月日をかけてようやく完成を見たが、それはよく三原高校の「体」と「用」を表すものとなったと思う。校訓よ、前途有為の若者の力たれ。

心を敬い、知を愛す。志を堅くして、力強く進む。三原高校の生徒たちは、まさにこの言葉のように高校生活を送り、旅立ち、社会で活躍してきました。その根底には、三原高校での切磋琢磨した日々があります。先生方から叱咤激励されながら、自らを鍛えた三年間がありました。これぞまさしく「三原高校の伝統」です。

鹿林さん、倉橋さん、村上さん、寄稿ありがとうございました。

ところで、村上さんの文章の冒頭の数式

$$3 + 2 + 4 + 1 \sim =$$

の答えは、村上さんが三原高校とかかわった年月、すなわち、生徒として3年、教育実習2週間、教員として4年、そして定時制教頭として1年～、ということです。分かりましたか？

(副会長 三次至和 28回生)